

## 事例⑧【学習評価の工夫】

### I 設置状況

学校種	中学校	
開室時間	8:00～16:30	
校内教育支援センターの職員について	専属職員数 1人	

設置する際に工夫した点

- 個人の学習机には、電気スタンドとホワイトボードを備え付けている。
- 個人学習だけでなく、校内教育支援センター内にいる生徒全員との関わりをもたせるために、教室の中央には大きい机を設置した。
- パーテーションが5台あるため自由に仕切りができるようになっており、生徒の実態に合わせた環境がつくれるよう、レイアウトを変えている。

### 2 実践事例

事例	校内教育支援センターを利用している生徒の学習評価のあり方の具体化
支援内容	教室での授業と同じように評価できる場合(次の①～③)を明確にし、指導・援助を行っている。 ①教室で行っている授業をteamsで配信し、校内教育支援センター担当職員が支援する場合 ②教室で行っている授業内容を校内教育支援センター担当職員と学習する場合 ③教科担任や職員が授業内容に合わせた補充授業を校内教育支援センターで行う場合
生徒の姿の変容	人間関係のトラブルで教室での居場所がないと感じる、学習に不安をもつ等、様々な不安や悩みを抱える生徒たちは、校内教育支援センターが居場所となっている。周りの目を気にすることなくのびのびと学習ができ、生徒たちの表情は以前と比べてとても明るくなった。また、校内教育支援センター内の生徒同士のつながりもできており、生徒たちは、毎日元気に過ごしている。
生徒の声	・校内教育支援センターで授業を受けても、教室と同じように評価されるためありがたい。 ・他の目を気にすることなく生活できるため、過ごしやすく、安心できる場所である。 ・毎時間に先生がついてくれるから、いろんな先生と話せるし、学習で不安なところを聞きやすい。

### 3 成果と課題

成果	・個々が抱える不安感に寄り添い、生徒の自己選択・自己決定に沿った支援ができた。 ・カードに記録を残すことによって、教科担任があとから見直すことができた。 ・生徒理解研修を通して、全職員が個々の実態を知り、それぞれの生徒に合った言葉かけができた。 ・生徒の頑張りを認める場が多くあったことによって、生徒の自己肯定感が高まった。
課題	・校内教育支援センター内の通信機器の整備や環境の改善(音声の聞き取りにくさ等)をする。 ・教室の仲間たちとの関わりはどうしても減ってしまうので、教室に入ろうと思っても、生徒は入りにくく感じてしまっている。

### 4 今後の方針

・校内教育支援センターに通う生徒たちの理解を、他の生徒たちにも広げていく必要がある。 ・本人の状況に合わせた適切な支援ができるよう、毎週行っている生徒理解研修で、情報を共有し合う。 必要なときには、速やかにケース会を開き、支援方法について検討していく。 ・校内教育支援センターに通う生徒の保護者には、定期的に面談をし、保護者の不安を取り除く。
--